スポーツ実技（体つくり運動）	実習	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322103 11531101 12220105 12531101 13220106 13531101

１．授業のねらい・概要

「体つくり運動」は，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整えるなどの体ほぐしをしたり，体力を高めたりすることをねらいとして行われる運動のことであり，全面的な体つくりを配慮しながら，個に応じた体づくりを行うとともに，「体ほぐし運動」や「体力を高める運動」の実践・指導ができる能力を身に付けることを目的とする。

２．授業の進め方

実技を中心に行う。運動の課題によって個人，グループ，全員で取り組み，互いに協力し安全に，しかも楽しみながら運動ができるようにすすめて行く。

３．授業計画

１．ガイダンス(教室にて)	９．「体力を高める運動」筋力を高める運動
２．「体つくり運動」とは	10．「体力を高める運動」スピードを高める運動
３．「体ほぐしの運動」ストレッチ	11．「体力を高める運動」柔軟性を高める運動
４．「体ほぐしの運動」器具を用いない運動	12．「体力を高める運動」瞬発力を高める運動
５．「体ほぐしの運動」縄跳び	13．「体力を高める運動」調整力を高める運動
６．「体ほぐしの運動」器具を用いた運動	14．総合体力を高める運動①（サーキット運動）
７．「体ほぐしの運動」マット運動	15．総合体力を高める運動②（球技）
８．「体力を高める運動」全身持久力を高める運動	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日頃から 20 分間ほど適度な運動をし，体の調子を整えておく。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

個々の体力の向上を目的とし、実践した内容を自身以外の相手へ指導できるようになること。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢や参加態度などの平常点（100%）で評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

授業の目的を認識し，運動にふさわしい服装で出席すること。慢性的な疾病もしくは障害によって実技部分の受講に不安のある学生は事前に申し出ること。人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（サッカーＡ） 【スポーツ実技（サッカー）】	実習	准教授　山口　重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322104 11322104 11532102 12220106 11532102 13220112 13532102

１．授業のねらい・概要

本科目は，サッカーの基本的なルールや基礎技術を学び，試合形式のゲームを通じてサッカーの魅力，楽しさを体験する。仲間とともにゴールや勝利の喜びを体感する。また，この授業を通して体力の増進を図る。

２．授業の進め方

初心者，経験者を問わずサッカーのルール・基本技術の習得と様々な形の試合形式を中心に行う。
雨天時は教室においてビデオを使用して，ルールの確認や海外の試合を見る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．対人プレー　クワトロゲーム
２．基本技術の習得（パス，ボールコントロール）	10．対人プレー　７対７
３．基本技術の習得（ドリブル）	11．ゴール前の攻防
４．基本技術の習得（様々なキックの種類）	12．試合１１対１１　セットプレーの攻撃
５．アイスブレークの実践	13．試合１１対１１　セットプレーの守備
６．対人プレー　１対１	14．試合１１対１１　主審・副審の実践
７．対人プレー　３対１	15．まとめ
８．対人プレー　４対２	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

Ｊリーグや海外の試合を見ることでサッカーの技術・戦術の魅力を感じて欲しい，グランドレベルで再現できるかは別として真似をしてみようとイメージをつくる。当然，サッカーの１試合（90 分）を通して見ること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のプレーに対して留意点を指摘する。また，素晴らしいプレーに関しては褒める声掛けをしてモチベーションを上げる。

６．授業における学修の到達目標

サッカー観戦およびサッカーの試合を行うとき，指導を行うときにルールを十分に理解してサッカーを楽しむことが出来る。対戦相手，レフリー，チームメイトをリスペクトしてトレーニングや試合を行うことができる。

７．成績評価の方法･基準

授業の取り組み，技術，戦術の理解度（50%）。定期的に試験（リフティング等の技術）を行い，上達度を加味して（30%）講義への参加意欲（20%）で評価する。

８．テキスト･参考文献

サッカー競技規則と実践的審判法（公益財団法人　日本サッカー協会審判委員会　制作）

９．受講上の留意事項

実技の際は，運動に適した服装・シューズで参加すること。また，時計・装飾品（ネックレス，ピアス，指輪）は外して参加すること，自分や他の人を傷つける可能性があるため。

運動に適さない服装で出席した場合は，授業の参加を認めない場合もある。

怪我をしていて参加できないときは怪我の状況を伝えて見学をすること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(バスケットボール)(1)(2)		実習	非常勤講師　棟方　公寿
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322106 11532101 12220108 12532101 13220111 13532101

１．授業のねらい・概要

バスケットボールを通じて個々の運動能力，体力の向上を目指し，またチームの一員としてどのように役割を果たし，貢献できるかを考えることで，自己の責任とコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに，教員を志望する学生は指導法を考えながら実施することを目指す。

２．授業の進め方

基礎的なスキル練習を行ないながら，1on1，2on2，3on3，4on4 などを経て，5on5 のゲームへと発展させる。

３．授業計画

１．ガイダンス（バスケットボールの概論） ２．導入(設備・用具・準備運動「ドリブルレイアップシュート」・5on5) ３．準備運動、ファンダメンタル(ドリブルの基本的な考え方⇒2 ボールドリブル) ４．準備運動、ファンダメンタル(ドリブルのタイプ⇒1 ボールドリブル ZigZag) ５．準備運動、ファンダメンタル(パスの基礎知識・パスの種類・キャッチ) ６．準備運動、1on1 の技術と戦術(オフェンス) ７．準備運動、1on1 の技術と戦術(ディフェンス)	８．準備運動、基本的スキル 5on5(Off・Def の基本) ９．準備運動、パス&ラン⇒2 メンカッティングムーブとスクリーンプレイ 10．準備運動、基礎的スキル 2on2⇒5on5(ハーフコート) 11．準備運動、基礎的スキル 3on3⇒5on5(ハーフコート) 12．準備運動、基礎的スキル 4on4⇒5on5(ハーフコート) 13．準備運動、5on5（ゲームの進め方） 14．準備運動、5on5（ゲームを楽しむ） 15．準備運動、5on5（ゲームとまとめ）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

バスケットボールの最新ルールを事前に調べ，ある程度理解しておくこと(１時間)。個人のスキルに関して，可能な範囲で繰り返し練習をしておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業ごとにその日の練習のテーマに関して質問，感想，意見等を聞き，回答する。

６．授業における学修の到達目標

バスケットボールの基礎技術を身につけること。また，教員志望者は授業の展開の仕方，注意する点などを学び，教育実習に活かせるよう自分の指導法の選択肢を増やすことを目的とする。

７．成績評価の方法･基準

積極性などの平常点（60%），意欲態度（20%），知識技量（20%）。

８．テキスト･参考文献

特になし。必要があれば授業中に紹介，またはプリントを配布することがある。

９．受講上の留意事項

バスケットボールは比較的激しいスポーツであり，ダッシュやジャンプを繰り返し行なうため，服装はスポーツに適したものを着用し，シューズも可能な限り，衝撃を吸収する素材のものを使用すること。Ｇパンやチノパンなど，また外履きシューズの使用は認めない。Ｔシャツ，ジャージ等スポーツにふさわしい服装で臨むこと。
さらに，爪は短く切り，ネックレス，ピアス等は，危険なので外すこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(テニス)(1)(2)(3)	実習	教授　大森　肇 講師　成田　仁	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救命救急士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322107 11531105 12220109 12531105 13220113 13531105

１．授業のねらい・概要

本授業は，スポーツ文化としてのテニスを生涯にわたって楽しむための基礎づくりをねらいとしている。そのために，1)テニスの用具，施設・設備，技術，関連体力，ルール，マナー，戦術などの基礎知識を学び，2)テニスを実践し，3)学修の成果について考察することが求められる。

２．授業の進め方

基礎的な技術の理解と反復練習により段階的にレベルを上げ，ゲームへと発展させながらルール・マナーも身につける。

３．授業計画

１．知識（コート，ラケット，グリップ），ラケットワーク ２．フォアストローク（素振り，ショートラリー） ３．フォア&バックストローク（素振り，ショートラリー） ４．フォア&バックストロークを用いたロングラリー ５．シングルスゲーム導入（初級：ショート，中級：半面） ６．フォアボレー導入（キャッチ，手の平ボレー，短く持ってボレー） ７．フォア&バックボレー（交互にボレー，ボレー&ボレー） ８．サービス導入（キャッチボール，素振り，ヒット）	９．スマッシュ導入（素振り，ヒット） 10．ダブルスゲーム導入（ルール，進行，マナー） 11．ダブルスゲーム導入（戦術） 12．ダブルスゲーム（班別対抗戦１） 13．ダブルスゲーム（班別対抗戦２） 14．ダブルスゲーム（班別対抗戦３） 15．ダブルスゲーム（班別対抗戦４）

４．準備学修に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

本授業の内容を修得するためには段階的な積み重ねが大事である。授業後，当日中に授業内容を知識・実践・考察の観点で整理しておくこと。この事後学修には１時間程度が必要である。それが次回に向けての準備学修になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業自体が発展的課題となっている。課題に対する成果について，授業内で全体的・個別的にフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

1)テニスの用具，施設・設備，技術，体力，ルール，マナー，戦術などの基礎知識を学び，2)テニス実践を通して上達し，3)学修の成果について考察することを目標とする。

７．成績評価の方法・基準

意欲・態度（30%），知識・理解（30%），技術（40%）を総合的に評価する。

８．テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

９．受講上の留意事項

運動に適した服装とテニスシューズかそれに準ずる靴を用意する。コート面数の関係で受講人数の調整をする場合がある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

日本テニス協会の１級公認指導員の資格を持ち、多数の民間テニススクールでの指導経験を有する教員がそのキャリアを活かして授業を実施する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツＡ	講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

１．授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない，スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが，これから定義したり内容を限定しようとすると問題が多い言葉である。

そこで，スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め，スポーツ生活について考え，学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め，ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

２．授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと，運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて）	９．サッカー（②班別による練習ゲーム）
２．健康の考え方	10．ソフトボール（ルールの理解）
３．スポーツ活動	11．ソフトボール（簡単スコアの書き方）
４．実技種目の説明	12．ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム）
５．サッカー（ルールの理解）	13．ソフトボール（①班別による練習ゲーム）
６．サッカー（パスの練習）	14．ソフトボール（②班別による練習ゲーム）
７．サッカー（パスの練習・練習ゲーム）	15．まとめ（歴史についての理解）
８．サッカー（①班別による練習ゲーム）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて，書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し，実践できることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ社会学(1)(2)	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312101 12220117 13220118 11532104 12532104 13532104

１．授業のねらい・概要

オリンピックやワールドカップなど，世界的なスポーツイベントに対する国民の関心の高まりに象徴されるように，現代においてスポーツは強大な社会現象あるいは文化現象となりつつある。現代社会における生活や健康，さらには生きがいや福祉というキーワードはますます重要になっており，スポーツは私たちにとって必須の生活文化となりつつある。

人々はなぜスポーツを実施したり観戦したりするのだろうか。現代社会におけるスポーツの意味や価値をどのように理解するかは，種々のスポーツ指導者やスポーツ関連の職を目指すものにとって，専門性を問う基礎的な教養として非常に重要なことである。スポーツの起源や発展過程を歴史的な文脈で理解し，スポーツが人間や社会にとってどのような文化的な価値を有しているのか，社会学的な視点からの理解を深める。

２．授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また，隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。適宜，社会におけるスポーツの課題に関する新聞記事や資料を配布する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツの概念と歴史①（スポーツとは何か，スポーツの歴史的発展） ３．スポーツの概念と歴史②（スポーツの社会的システム） ４．文化としてのスポーツ①（日本人のスポーツ観） ５．文化としてのスポーツ②（スポーツマンシップとフェアプレイ） ６．社会の中のスポーツ①（スポーツの多様化） ７．社会の中のスポーツ②（スポーツマンガの社会学） ８．社会の中のスポーツ③（スポーツの産業化，スポーツと経済）	９．学校の運動部活動をめぐる問題①（教員の過重負担） 10．学校の運動部活動をめぐる問題②（部活動の地域展開） 11．みるスポーツとは何か（スペクテイタースポーツの理解） 12．障がい者とスポーツ 13．こどものスポーツ環境を考える 14．スポーツと暴力の社会学 15．現代社会におけるスポーツの課題（新しいスポーツのかたち）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと（新聞記事などを事前に配布することもある）。これらの自主学修には２時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，授業時の課題については，次回の授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツの文化的な価値や意義を理解し，社会学の視点から現代社会におけるスポーツの在り方を思考する力を身につける。

７．成績評価の方法･基準

期末レポート（50%），授業時における課題（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：森川貞夫・佐伯年詩雄　編著「スポーツ社会学講義」（大修館書店，2009）

山田明編　「未来を拓くスポーツ社会学」（みらい，2020）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

コーチング論	講義	准教授　山口　重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11321102 11532107 12220118 12532107 13220121 13532107

１．授業のねらい・概要

近年のライフスタイル変化にともない，スポーツは人々の生活を豊かにするために欠かせない要素の一つとなってきた。スポーツジムやフィットネスクラブなど施設を利用したものに限らず，スポーツ教室のように地域の人々が集まって取り組むケースも多く見られ，スポーツ指導者を求める声も高まってきている。

本講義は，公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツのコーチングに関するさまざまな知識を身につけ，「スポーツを安全に，正しく，楽しく」指導し，「スポーツの本質的な楽しさ，素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

２．授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また，与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

３．授業計画

１．ガイダンス～本講義の概要説明	９．指導計画の立て方
２．スポーツ指導者とは	10．スポーツ指導計画の重要性
３．スポーツ環境からみた指導者の役割	11．指導計画の検証
４．指導者の心構え・視点	12．ドーピング防止に必要な知識
５．スポーツ指導者のコミュニケーションスキル	13．スポーツ活動と安全管理
６．一貫指導とそのシステム化の重要性	14．安全確保のための具体的行動
７．発達発育とスポーツ	15．まとめ
８．時代をリードするコーチング（女性コーチの活躍）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し，理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には，２時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際，解答などを説明する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツにおけるコーチングの知識を身につけて，指導現場で活かせるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

参考図書：　「リファレンスブック」（公益財団法人　日本スポーツ協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人　日本体育協会）

９．受講上の留意事項

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため，講義回数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経済学基礎①②		講義	准教授　小松原　崇史	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11120104 12220119 13220101

１．授業のねらい・概要

本授業では，経済学の中でも，とくにミクロ経済学についての基礎的な考え方を説明します。経済における一般的な法則を見出そうとすることが，ミクロ経済学の目指していることです。

２．授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため，問題演習を行うことがあります。なお，履修者の理解度に応じて，以下の授業計画を変更する可能性があります。

３．授業計画

１．この授業の目的	９．前半のまとめと復習
２．市場とは	10．市場均衡とは
３．需要（需要曲線）	11．市場均衡の変化
４．需要（個人の需要と市場の需要）	12．応用問題①（価格の規制）
５．需要（需要曲線のシフト）	13．応用問題②（薬物の取締）
６．供給（供給曲線）	14．応用問題③（農業の発展）
７．供給（個人の供給と市場の供給）	15．後半のまとめと復習
８．供給（供給曲線のシフト）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後，その回の内容を復習してください。そのためには，毎回１，２時間程度が必要です。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を，授業内に解説します。

６．授業における学修の到達目標

目標は，経済学の基本的な考え方を，理解できるようになることです。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（100%）によって，成績を評価します。

８．テキスト･参考文献

参考書として，N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 Ⅰ　ミクロ編（第４版)』(東洋経済新報社，2019 年）を使用します。

９．受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い，改善が見られない場合には退出を求めます。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

マーケティング基礎①②		講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11120106 12220120 13220102

１．授業のねらい・概要

マーケティングは一言で言うと「買ってもらう仕組づくり」です。顧客価値の創造と提供を行う経営活動の総称と表現することもできます。授業ではマーケティングの基礎を体系的に学びます（１セメスターで完結)。市場分析、顧客ニーズの把握，価値ある製品・サービスの開発，戦略的な価格付け、宣伝と販売戦略，顧客エンゲージメントの獲得というプロセスを学んだ後，複数の業種・業界のケーススタディを取り上げることで実践的な知識を身に付けます。マーケティングを入口にしてビジネスに興味を持ち，学び続けるための基礎を習得することがねらいです。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．デジタルマーケティング　②ＳＮＳ
２．マーケティングの分析フレームワーク	10．デジタルマーケティング　③パーソナライズ
３．市場分析／市場細分化／選定／ポジショニング	11．第２回小テスト
４．マーケティングミックス　①製品戦略	12．ケーススタディ　①製造業
５．マーケティングミックス　②価格戦略と③流通戦略	13．ケーススタディ　②小売業
６．マーケティングミックス　④プロモーション戦略	14．第３回小テスト
７．第１回小テスト	15．総まとめ
８．　デジタルマーケティング　①マイクロ	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

メディアなどで報道されるマーケティング関連の情報を理解し，他の人と議論出来るようになることや，自らがマーケティングを学び続けるための基礎を習得することを目標とします。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報社会とコンピュータ	講義	准教授　関川 弘	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103

１．授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において，日常生活，企業活動，地域活動をスムーズに行うためには，コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに，人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では，数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベルの素養を身に付ける。

２．授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回，講義後に授業内容のサマリーの提出を求め，その内容について講義でディスカッションする。また，海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

３．授業計画

１．コンピュータでデータを作る	９．データの処理
２．新たな社会の発展段階	10．企業における情報システムと AI の活用
３．ビッグデータの収集，蓄積，活用	11．観光をデータから見る
４．人工知能と機械学習を知る	12．医療とディジタル
５．コンピュータからおすすめ情報が出る	13．情報セキュリティに対する脅威と脆弱性
６．情報を見える化する	14．情報セキュリティ対策
７．データを読み取る	15．個人情報の保護と活用
８．データの説明	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として１時間程度，インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後３０分程度，学習した内容をどれだけ多く，正確に説明・解説できるか自身で試みること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント，及び出題の目的を説明した資料を配布する。また，毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合，次回講義で，いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ，データサイエンスに関する理解を深め，関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また，コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%），授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては，どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書をもとに講義するので「データサイエンス入門」（共立出版，豊田修一，樽井勇之）を必ず購入すること。参考文献は適宜紹介する。

９．受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また，新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本史概説		講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220105 12220126 13220131

１．授業のねらい・概要

日本の歴史を時代区分した場合，古代・中世・近世・近現代の４つに分ける考え方がある。もし１セメスターの中でこれらすべてを網羅的に見ていくとすると，一つの時代についておよそ 3，4 コマで対応することになるが，それでは大学生にとっての教養科目としてあまりに茫漠たる内容とならざるをえない。

そこで，本講義は対象を 8，9 世紀のおよそ 200 年間にしぼり，その間のわが国の政治，社会，文化の様相を見ていくことで日本史の概説にあてたいと思う。

対象をこの時期とした第一の理由は，講義担当者がこれまで 8，9 世紀史を主な研究対象としてきたことである。第二の理由は，「律令国家」の時代と呼ばれるこの時期に，前近代を規定する様々な法制度が確立されていること，また，この時期に都の置かれた奈良･京都が古都として，今日でも日本人のいわば「心のふるさと」としての地位を占めていると考えるからである。高校の日本史の時間であればわずか数時間の講義で終えてしまう部分を，じっくりと解説していきたいと考えている。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解をより深めるため，パワーポイント等のＡＶ機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．７世紀後半期の東アジア情勢と目本	９．奈良朝政治の諸相④　称徳・道鏡政権
２．律令国家の構造① —統治のしくみ	10．光仁から桓武へ
３．律令国家の構造②— 一般農民の生活と税の負担	11．『万葉集』の時代
４．藤原京から平城京へ	12．征夷と造都
５．奈良仏教	13．三代の平安
６．奈良朝政治の諸相①　長屋王の悲劇	14．平安貴族の生活
７．奈良朝政治の諸相②　天然痘と奈良朝政治	15．まとめ —律令国家二百年をふりかえって
８．奈良朝政治の諸相③　藤原仲麻呂政権	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2 時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「日本古代史」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。なお，本講義では歴史上の人物や法令など固有名詞が頻出するので，あらかじめ高校程度の日本史の知識を修得しておいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本文化概論		講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220107 12220128 13220133

１．授業のねらい・概要

「日本文化」あるいは「伝統文化」という言葉を聴いて，諸君はいかなるイメージを頭に描くだろうか。能や歌舞伎，文楽といった伝統芸能の数々を思い浮かべる者もいるであろうし，寺社や城といった建造物，そこに収められている様々な工芸作品，あるいは寿司や蕎麦といった和食のメニューを考える者もいるかもしれない。もちろん，この問いには何が正しく何が間違っているという解答はない。我々の祖先が営んだ生の中で形作られてきた，有形･無形のさまざまな遺産を総称して「日本文化」「伝統文化」と捉えることができるのではないだろうか。

本講義は主に前近代を対象として，基本的には１コマで一つの事例を取り上げることで，時には外国からの強い影響を受け，また時には固有の展開を見せながら発展してきた「日本文化」，及びそれを構成した様々な要素（文物，芸能，その他）を紹介していきたいと考えている。

もとより，半期という期間の中で「日本文化」を網羅的に述べることは困難であり，トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解を助けるためパワーポイント等の AV 機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．「日本文化」を概観する－導入	８．火縄銃 ―技術の移入
２．縄文と弥生	９．茶の湯 ―極小の宇宙
３．古墳	10．城郭 ―多賀城と姫路城
４．神社と寺院 ―固有と外来	11．伝統芸能① ―能楽
５．東大寺廬遮那大仏 ―８世紀の国家プロジェクト	12．伝統芸能② ―歌舞伎
	13．浮世絵 ―ジャポニスムへの影響
６．平等院鳳凰堂 ―浄土への思い	14．寿司・蕎麦・天ぷら―「和食」の成立
７．金閣と銀閣 ―禅の文化	15．近現代への展望 ―まとめにかえて

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2 時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「日本文化」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有する。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会科学の基礎Ａ		講義	准教授　黒沢　賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220116

１．授業のねらい・概要

科学は社会科学，人文科学，自然科学に分けられるが，このうち社会科学は法学，政治学，行政学，経済学，社会政策，財政学などの総称で，社会の真理を探求する学問である。中学，高校では「公民」「公共」「政治経済」などの科目で学んだ知識が社会科学である。

「社会科学の基礎Ａ」では，法学，政治学，行政学の基礎概念について学び，それらの知識をもとにますます複雑化している現代社会を見る眼を養っていくことを目的とする。また社会科学は公務員試験で出題される一般常識(知識)分野の重要科目であり，講義では試験に出るポイントも解説し，この授業だけで合格ラインをこえられる知識を修得できるようにする。

２．授業の進め方

板書しながら解説する講義形式で進める。授業では知識を解説していくだけでなく，その日の授業に関連する時事問題も積極的に取り上げ，理論と現実との懸け橋となれる講義をめざしていきたい。また公務員試験の過去問題も紹介していく。

３．授業計画

１．ガイダンス（授業予定と注意事項）	８．政治制度論
〈法学〉	９．国会
２．法の分類	10．内閣
３．法の支配と法治主義	11．裁判所
４．日本国憲法	12．政党政治と選挙
５．基本的人権	13．地方自治
〈政治学・行政学〉	14．国際政治
６．国家論	15．まとめ講義
７．民主政治の基本原理	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが，授業を受けた後はテキストと配布されたプリントを必ず読み直し，授業時に紹介された参考文献等があれば，それを読んでさらに理解を深めて欲しい。そのための復習時間は1～2時間程度，必要になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ノート，レポート提出後に評価のポイントなどを指摘する。

６．授業における学修の到達目標

(1)社会科学の基礎知識が理解できるようになる。
(2)法学，政治学，行政学の基礎概念がわかるようになる。
(3)時事問題について，自分の意見や考えを言えるようになる。
(4)大卒レベルの警察官，消防士，市町村職員採用試験等の問題が解けるようになる。

７．成績評価の方法･基準

講義ノート(50%)とレポートの結果(50%)によって評価する。

８．テキスト･参考文献

(1)黒沢賢一著『社会科学の基本理論　大学教養講義ノート』(学術研究出版)　毎回必ず持参すること。

(2) この他必要なプリントを配布し，参考文献や受験教材等は授業の中で紹介する。

９．受講上の留意事項

授業中は板書したことをしっかり講義ノートにとり，また授業はただ聞いているだけでなく，説明された内容はメモを取りながら聞く習慣を身につけること。

授業中の私語やスマートフォン，イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は地方議会における実務経験（市議会議員）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツと文化		講義	教授　平沢　信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

１．授業のねらい・概要

今日，世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ，また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では，スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで，人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から，ときには文化人類学的観点も交えながら，スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なる，世界史的教養を文明史の視点から深める講義としたい。

２．授業の進め方

基本的には，講義内容の概要を記したレジュメを G メールで事前配信し，その講義要旨に即して解説する。適宜 PowerPoint を活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ，そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には，講義要旨を読みつつ，スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

３．授業計画

1．「スポーツ」とは何か？　― 語義と語法 2．スポーツの歴史 ― その概観と種類（類別） 3．オリンピックの歴史と文化 4．祭典・祝祭とスポーツ 5．スポーツと宗教 6．スポーツと社会階級 7．体育スポーツ施設の文化史 8．足で蹴る球技スポーツの歴史 ― フットボールとバスケットボールを中心に	9．近代フットボールの成立と派生形 10．球を棒等で打つ競技の誕生と歴史 11．体操という身体運動文化の近代史 12．近代球技スポーツの文化史 13．日本における近代スポーツの紹介と導入 14．近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 ― 学生野球の歴史を中心に 15．西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料を pdf 版で事前送信するので，その講義要旨の当該ページを次回講義までに通読して予習（30 分程度）しておくこと。興味をひかれた情報については，受講者各自が所有するスマホ等で検索し，積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後，講義要旨（レジュメ）の内容を読み返し，気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して，あるいは関連文献で学習を深掘りし，復習（30 分程度）しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末試験について特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）等の講評を G メールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史（ルーツや創始者を含む）および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め，説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず，併せて世界の地理に関する認識・理解も高める。

７．成績評価の方法･基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。

８．テキスト･参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社，1978 年
ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店，1993 年
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院，1994 年
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社，1995 年
鈴木守，山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま)』道和書院，2000 年
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社，2002 年
井上俊，菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012 年

９．受講上の留意事項

講義中は私語を慎み，居眠りをしないこと。
可能な限り図書館に行って，上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。
インターネットでの検索を厭わず，億劫がらずに，こまめに調べる態度と習慣を養うこと。
当該回の講義要旨全体を熟読して，復習すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本国憲法	講義	教　授　吉田　一康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220115 11510101 12220135 12510101 13220140 13510101

１．授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解します。特に，最近，問題となっている憲法改正や皇位継承，自衛隊の海外活動については，論点を詳細に考察して，自分の意見を持つことを目的とします。また，2009 年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておきます。

以上の学習を通じて，生命の尊厳を理解し，倫理観と責任感，幅広い視野を持った心豊かな人間性を身につけます。更に，国際的な視野を持って活動できる能力を有して国際平和の実現に寄与できる人間となることを目標とします。

「ビジネス法学入門」の基礎的な部分と関係します。

２．授業の進め方

① 50～60 分　配布するレジュメ（要約の印刷物）に従ってパワーポイントを使用して講義を行います。憲法の第１章「天皇」第１条から第 11 章「補則」第 103 条まで，重要事項について，基本的に条文番号順に説明します。

② 30～40 分　配布する練習問題に回答して，その後，解答を行います。また，質問・意見があれば討議を行います。

３．授業計画

１．講義紹介	９．社会権（生存権など）
２．憲法とは（憲法制定，硬性・軟性憲法）	10．財産権・人身の自由（財産権の不可侵など）
３．国民主権と天皇制（象徴天皇，皇位継承）	11．参政権（選挙権，被選挙権，公務就任権）
４．戦争放棄（自衛戦争，侵略戦争）	12．国会（二院制，国政調査権）
５．第９条関係（自衛隊の海外派遣）	13．内閣（議院内閣制，解散権）
６．憲法の主体（日本国民，外国人，法人）	14．裁判所（裁判員制度）
７．基本的人権（法の下の平等）	15．司法，財政，地方自治，憲法改正など
８．自由権（思想及び良心の自由など）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（１時間程度）。講義後，授業内容を復習して，レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（１時間程度）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 各講義で行う練習問題の後に，解答及び説明を行います。　② 期末試験の後に，解答を行います。

６．授業における学修の到達目標

① 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解できるようになること。

② 戦争放棄や自由権などの政治問題について独自の価値観を形成すること。

７．成績評価の方法･基準

評価は，上記６に示した学修の到達目標を，ルーブリック評価表を基に４段階評価（A80 点以上　B70～79 点　C60～69 点　D（不可）60 点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は，第１回講義内で別途説明します。

具体的には，積極性 10～20％＋期末試験 80～90％で評価します。積極性は，受講態度や積極性で評価して，客観的に認

識できる遅刻，私語・居眠りに対する注意の場合，減点します。期末試験の受験資格は，全講義の３分の２以上に出席した者とし，出題範囲は全講義で，特に上記６①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と，同②に関する記述問題を出題します。

８．テキスト･参考文献

毎回，レジュメと練習問題を配布し，テキストは使用しませんので，特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

①小嶋和司・大石眞『憲法概観』（第７版）有斐閣双書　2011 年（2090 円）

②木下智史・只野雅人『新コンメンタール憲法』日本評論社　2015 年（5060 円）。

９．受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や，遅刻・中途退席などの目立つ受講者については，評価を減点又は受講を制限します。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

統計学の基礎 -データ処理入門-	講義	教授　竹内　成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220125 12220142 13220128

１．授業のねらい・概要

私たちは日ごろ各メディアを通じ，人口・年収といった様々な数値データを目にしている。しかし，その全てが正しいデータ処理と解釈がされているわけではない。統計とは様々なデータを客観的に取り扱い，正しく評価するためのツールであり，スポーツ分野でも広く利用されている。例えば，競技データの検討，スポーツ製品の市場評価などにも用いられており，その利用価値は高い。本講義では初学者からでも学べるように身近な現象を取り上げ，表計算ソフトや無料の統計ソフトを用い，データの取得やその分析体験を通して，データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

２．授業の進め方

パワーポイント，板書等により授業を展開し，学生はコンピュータ教室で実際にＰＣを操作しながら，具体的統計手法を学ぶ。

３．授業計画

１．統計学とはなにか	９．帰無仮説と検定の概念
２．調査手法とデータの種類	10．検定用データの取得（履修者が実際に取得）
３．データの種類と代表値	11．相関分析Ｉ（集計・基本統計量・散布図）
４．課題データの取得（履修者が実際に取得）	12．相関分析 II（相関係数と有意水準）
５．データ集計（集計・度数処理）	13．２群の差の検定Ｉ（対応のあるｔ検定）
６．データ可視化（図表による表現）	14．２群の差の検定 II（対応の無いｔ検定）
７．データ分散Ｉ（平均値と標準偏差）	15．総合演習
９．データ分散 II（信頼区間）	＊本講義はコンピュータ教室で行う。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため，各テーマについて予め調べておくこと。加えて，各講義で学んだ各統計・データ処理手法について理解を深め，実際に処理できることが重要である。なお，各講義における準備学習時間は 2 時間程度を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関する詳細解説は講義内にておこなう。また，最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について最終課題終了後に実施する。

６．授業における学修の到達目標

本講義では，データ処理に関する基本的な実践能力の習得を目指す。具体的には EXCEL などの表計算ソフトや無料の統計ソフトを利用し，データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

各回の課題実施状況（50%），最終課題（50%）を基準として総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは特に指定しない。参考図書は以下に加え，授業中に適宜紹介する。また，プリントを配布することがある。

参考図書：清水 優菜・山本 光 JASP で今すぐはじめる統計解析入門　講談社（ISBN-13: 978-4065292945）

９．受講上の留意事項

本講義ではPCを使ったデータ処理と統計の基礎を学ぶため，Microsoft Excelの基本操作が可能であることが履修条件となる（コンピュータリテラシB受講済み，もしくは同等の操作技能を有する)。また，講義内で各テーマに即したデータ取得を学生間相互で実施するあるため，積極的に参加することが重要である。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため，希望者は初回講義に必ず参加すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

化学基礎		講義	教授　田中　基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220127 12220144 13220105

１．授業のねらい・概要

私達の体は化学物質から構成されている。スポーツをするにも，救急救命をするにも，化学物質，化学物質間の相互作用，及び反応を知っていると， さまざまな処置や対応について深く理解することができる。理解できると興味が湧き， 自ら学ぶ意欲が一層湧いてくるものである。授業は高校化学の復習が中心となるが， より実生活、スポーツに関連した化学を勉強することを目指している。

２．授業の進め方

基本的には，教科書およびプリントを使って講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを説明する。

３．授業計画

１．はじめに－物質の基本粒子	９．酸と塩基
２．化学結合	10. 酸化還元反応
３．物質と化学反応式	11. 典型元素の性質
４．物質の状態変化	12. 遷移元素の性質
５．気体の性質	13. 脂肪族化合物
６．液体の性質	14. 芳香族化合物
７．化学反応と熱	15. 高分子化合物と生活
８．反応の速さと平衡	

４．準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に教科書の予定範囲を読み，大事そうだと思うところや分からないところをノートに書きながら，予習して下さい。分からないところに印をつけて下さい。また， ネットでもよいので語句の意味を確認しておくこと。

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので，「まとめ」を十分理解，記憶するように復習する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

a)　正解は貼りだす。

b)　解説は，不正解問題を中心に行う。

６．授業における学修の到達目標

化学物質の特性及び化学反応の仕組みを学び，スポーツや救急救命に役立てる。

７．成績評価の方法･基準

１）成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な化学的知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

２）成績評価の方法

a)受講態度（出欠・遅刻・早退、スマホ閲覧など）(30%)。(スマホ閲覧を禁止しています)

b)筆記試験（70%)。

８．テキスト･参考文献

テキスト：「高校の化学」が一冊でまるごとわかる　竹田淳一郎　ベレ出版　２０１８年出版

９．受講上の留意事項

高校で学んだ「化学基礎」または「化学」を復習しておくこと。

10. ［実務経験のある教員等による授業科目］の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツＡ	講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

１．授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない，スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが，これから定義したり内容を限定しようとすると問題が多い言葉である。

そこで，スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め，スポーツ生活について考え，学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め，ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

２．授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと，運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて）	９．サッカー（②班別による練習ゲーム）
２．健康の考え方	10．ソフトボール（ルールの理解）
３．スポーツ活動	11．ソフトボール（簡単スコアの書き方）
４．実技種目の説明	12．ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム）
５．サッカー（ルールの理解）	13．ソフトボール（①班別による練習ゲーム）
６．サッカー（パスの練習）	14．ソフトボール（②班別による練習ゲーム）
７．サッカー（パスの練習・練習ゲーム）	15．まとめ（歴史についての理解）
８．サッカー（①班別による練習ゲーム）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて，書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し，実践できることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツの科学Ａ	講義	講師　菅谷　美沙都 教授　谷口　英規 非常勤講師　小野　壮二郎	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220132 11510104 12220148 12510104 13220129 13510104

１．授業のねらい・概要

スポーツとは「日常からの解放」という原義を包含しつつ，現代においては「職業」,「学生の課外活動」,「趣味」,「健康維持」など様々なスポーツの在り方が存在し，人々の日常生活や社会生活に広く取り入れられている。スポーツの社会的な価値が認められつつある一方で，近年はスポーツという文化が内包する負の側面（暴力の許容等）についても露呈されており，我々はこうした問題を看過することはできない。本講義では，スポーツをあらゆる側面から多面的に捉え，現代社会におけるスポーツの価値を学ぶとともに，スポーツ実践者としてスポーツとどのように向き合うべきか，理論と実技を通じて一人一人が深く再考する講義としたい。

２．授業の進め方

本講義は，理論と実技の混合型講義である。講義においては，スポーツの起源やスポーツ特有のゲーム性，スポーツを行なう上でのスポーツマンシップの姿勢やフェア志向の考え方を概観する。実技においては，バスケットボールやソフトボールといったチームスポーツを体験する。

３．授業計画

１．ガイダンス（菅谷）	９．基本的なシュート（小野）
２．スポーツの起源と歴史（菅谷）	10．戦術や連携プレー（小野）
３．スポーツにおける「ゲーム」と「試合」（菅谷）	11．投球基礎【キャッチボール】（谷口）
４．現代スポーツの諸問題（菅谷）	12．守備基礎【ゴロ捕球・フライ捕球】（谷口）
５．スポーツマンシップとフェア志向（菅谷）	13．打撃基礎【トスバッティング】（谷口）
６．バスケットボールの特性と基本動作（小野）	14．ゲーム①【ケースを設定】（谷口）
７．ボールコントロールの指導①ドリブル（小野）	15．ゲーム②【チーム毎に戦術を立てる】（谷口）
８．ボールコントロールの指導②パスとキャッチ（小野）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため，各テーマについて予め疑問に思うこと，知りたいことを考察しておくこと。また，レジュメを振り返りながら講義内容に関して理解しているかを確認し，疑問に思ったこと等を次回の講義で質問できるようにまとめておくこと。これらの準備学修には 2 時間程度が必要である。実技に関しては，可能な範囲で繰り返し練習すること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後，解答，要点等を解説し，フィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

スポーツをあらゆる側面から多面的に捉える能力を身につけることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

菅谷担当分は課題レポート（40%）として実施し，小野担当分(30%)，谷口担当分(30%)の実技評価と合わせて評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは基本的には使用しない。講義レジュメを適宜配布する。

９．受講上の留意事項

実技の際，服装はスポーツに適したものを着用し，その他，各担当の先生の指示に従うこと。また，爪は短く切り，ネックレス，ピアス等は，危険なので外すこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会貢献実践		演習	教授　植松　盛夫	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220136 12220153 13220144

１．授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関，民間団体，NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって，地域社会になじみ，関わり，それを深め，地域課題を発見するというプロセスを通じて，問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは，現実にある問題に直面した際に，既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり，今後の学生諸君のライフ･キャリアにおいて重要な力となる。これはまた，現在，本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の１つでもある。

以上の趣旨から，本講義は，教員が一方的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく，学生が自発的に取り組み，グループ学習や現地実習，ディスカッション，結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより，単位が認定されることになる。

２．授業の進め方

実習では，学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について，大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから教学課に届ける。たとえば，下記のようなボランティア活動が考えられる。

① 県内の行政との協働
② 地域の商工会との協働
③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県，市町村など）
④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
⑥ 地域ＮＰＯ・ボランティア団体への参加
⑦ その他の地域活動への参加

３．授業計画

１．ボランティア活動の基礎（講義）	９．ボランティア実習（学習支援）
２．ボランティアの歴史と諸概念（講義）	10．ボランティア実習（高崎祭）
３．ボランティアの実践事例（講義）	11．ボランティア実習（子ども食堂）
４．災害ボランティアについて（講義）	12．ボランティア実習（しんまち商工祭）
５．活動計画書の作成（グループ活動・演習）	13．ボランティア実習（白鳥見守り隊）
６．ボランティア活動と SDGs（講義）	14．活動報告書の作成（演習）
７．災害に強いまちづくり（講義）	15．活動結果報告会(プレゼンテーション)
８．ボランティア実習（新町七夕まつり）	（※ボランティア実習については例示である）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30 分程度）。
・5 日間以上（30 時間以上）の外部実習を行い，実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1 件について 60 分程度），提出し，それに基づいて発表（発表のための資料作成に 120 分程度）する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」はコメントをつけて返却する。
活動結果報告会では，講評を行う。

６．授業における学修の到達目標

・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し，説明できるようになる。
・社会貢献実践の学外実習(5 日間以上)を行い，大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
・実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し，次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
・社会貢献実践の活動結果報告会で 1 年間の実習結果を発表し，その意義・役割・課題を理解し，活用できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

活動計画書，実習報告書などの提出課題内容（60%）と活動報告会での発表（40%）により評価する。

８．テキスト･参考文献

参考文献：田村正勝『ボランティア論-共生の理論と実践』ミネルヴァ書房，2009 年
前林清和・中村浩也編著『SDGs 時代の社会貢献活動』昭和堂，2021 年

９．受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが，その条件として実習先や日程を大学側に届け出て，必ず承認を得ることが必要である。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミＡ		講義	准教授　黒沢　賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目		科目ナンバリング	11220137 12220154 13220145 22200129

１．授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが，その合否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理，空間把握，数的推理，資料解釈などに分けられ，この授業では判断推理と空間把握について，その問題の解き方を講義する。判断推理はクイズのような問題で，空間把握はパズルのような問題である。いずれも公務員試験独特のもので，学校では習ったことがなく，最初はとまどうかも知れないが，試験に出題される問題は決まっているので，その解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また判断推理と空間把握の講義と並行して，授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説していく。さらに最近の人物重視の試験傾向をふまえて，面接攻略のためのポイントも講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが，これらは就職試験にも役立つ知識であり，最近の地方公務員試験では，市町村を中心にSPIやSCOAを実施するところがあり，それらの内容にも配慮した授業内容にするので，民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

２．授業の進め方

毎回の授業は，①一般知能テスト(判断推理，空間把握の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。面接対策については講義形式をとる。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．真偽
〈判断推理〉	10．暗号
２．順序関係	〈空間把握〉
３．時刻	11．パズル問題(図形の分割・構成)
４．位置関係	12．立体図形
５．対応関係	13．サイコロと位相
６．試合の推理（リーグ戦）	〈面接対策〉
７．試合の推理（トーナメント戦）	14．面接攻略法
８．命題と論理・集合算	15．まとめ講義

※判断推理，空間把握のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが，授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について，授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し，すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで，くり返し復習することが求められる。一般常識については，テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

テスト，課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

６．授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。

(2)公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
(3)公務員試験の面接に向けた準備ができるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

８．テキスト･参考文献

(1)黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社)　毎回使用するので必ず持参すること。
(2)その他の受験教材については授業の中で紹介する。

９．受講上の留意事項

毎回，授業のはじめに一般知能のテストをするが，できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて，くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく，説明の内容をしっかりメモし，ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン，イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には，「社会科学の基礎Ａ」も受講することをすすめる。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。